

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.6
平成25年6月11日

注意し合える集団を目指してー自主自律

6月10日（月）の全校朝礼では、素晴らしい場面をいくつか見つけることができました。まず、朝礼が始まる前の全校合唱です。4月から上田邦人先生が、歌うときの基本的な姿勢から指導してくださっていますが、体育館に響き渡る声は、昨年度までの1000人近くの声量と匹敵するぐらいになってきました。406名でも昨年度までの1000人近くの声量が出せることが目標です。それは、学級・学年・学校が「心ひとつに」して、集団としてまとまっている証ですから。

私が、朝礼の話を始めようとしたとき、一部低学年の方から小さなしゃべり声が聞こえてきました。すると、隣にいた女子児童が、すぐさま、その子に話を止めて、前を向くように促したのです。感動しました。素晴らしい光景でした。**自分たちの集団を高めるように、自ら律することができる兆しが出てきたのです。**これは、私がかねてから待ち望んでいた「自主自律」の姿です。こういう動きが、当たり前のように各学級でも見られるようになることを願いたいと思います。

全校朝礼の話よりー桜っ子なら、聞くから聴く、そして、訊くへ（6／10）

今日は、この字（「聞く」）を見て、何と読むか当ててみてください。そうですね、「きく」という字です。それでは、次の字（「聴く」）はどうですか？「きく」です。それでは、三つ目は難しいです。この字は（「訊く」）はどうですか？「きく」です。すごいですね。

「聞く」という漢字はすぐ読めた人は多いでしょうが、「聴く」という漢字もあります。英語で言うと、どういう単語に置き換えられるでしょう。中塚先生に聞いてみましょう。

聞くは、中塚：「hear」、聴くは、中塚：「listen」です。さらに「訊く」という漢字もありますが、英語ではどういう単語で置き換えられるのか分かりません。今度、エバン先生に聞いてみましょう。

さて、「きく」の第1段階は、この「聞く」です。みなさんの授業中の状態が、ほとんどこの「聞く」で、小学校低学年の段階です。この「聞く」は、耳に入ってくる声や音をただなんとなく聞いている様子を表しています。

桜っ子ならば、「聴く」でなくてははいけません。この「聴く」は「聞く」と比べると、耳が大きくなっていますね。「心」も入っています。「目」も横向きですが、入っていることに注目してください。

この「聴く」は、耳だけではなく、心も目も使っているということです。人の話を聴くときには、目を使うわけですから、発言する人の方を見ていない人は、単に聞いているだけで、聴いてはいないのです。

逆に発言する側は、口だけではなくて、手を使ったり、顔の表情を使ったりして体全体で表現することが大切です。真剣に聴いている人は、あなたを見ていてくれるのですからね。

さらに校長先生が望みたいのは、この「訊く」です。今度は「言」という漢字が入っています。この「訊く」は「尋ねる」という意味でも使います。**人の話を深く訊いている人は、「そのことはこういうことですね」とか「私はそのことについては、こう考えます」といった、人の考えを受けて、思わず言いたくなる、尋ねたくなるなどの状態になります。**これを「訊く」というのです。こういった時の人の目は、「ギラギラ」しています。

「聞く」時の目は「トロン」としています。「聴く」ときの目は、「キラキラ」しています。「訊く」とき目は、「ギラギラ」です。

今日からの授業では、ぜひ「トロン」ではなく、「キラキラ」を、そして、「ギラギラ」を目指してください。